

# フィレンツェが師、 誠実なるデザインの源

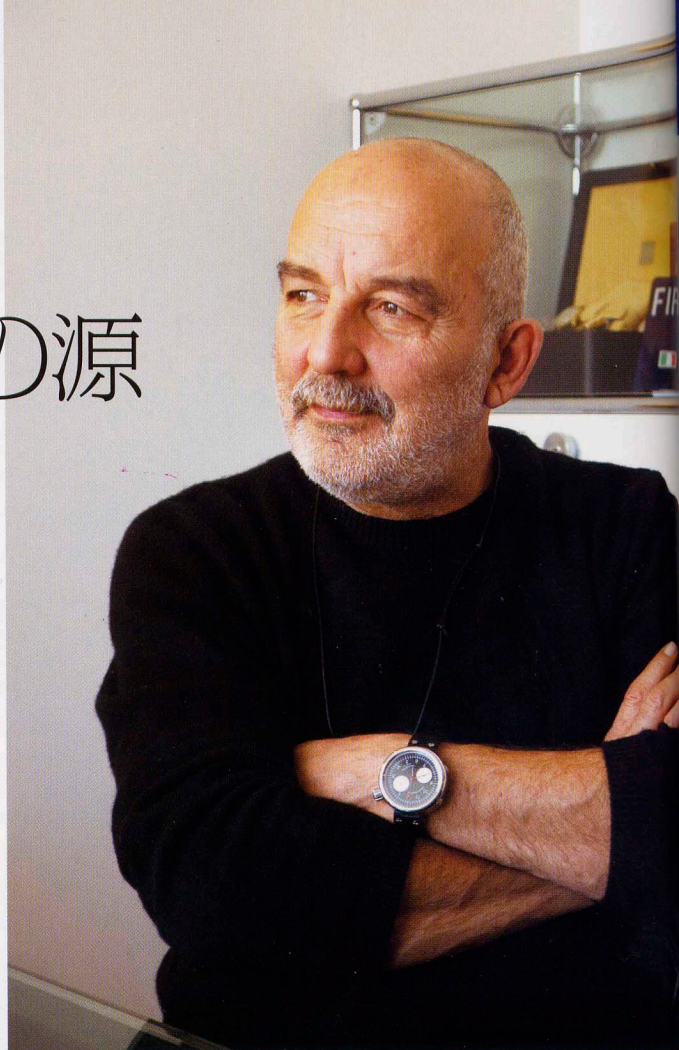
シンプルなフォルムと実用的な機能を持つステーションナリーのデザイナーとして世界中にファンを持つジュリアーノ・マッツォーリ氏。近年は「マノメトロ」に代表されるウォッチデザイナーとしても名を馳せている。フィレンツェを師として愛するトップデザイナーの誠実な心に触れた。

吉岡 宏/写真

## GIULIANO MAZZUOLI

ジュリアーノ・マッツォーリ

イタリア語でずばり圧力計という意味の「マノメトロ」



「この時計を見てどのような印象を受けますか」。インタビュ開始直後、ジュリアーノ・マッツォーリ氏は、まっすぐな視線で問いかけてきた。圧力計にインスパイアされたという「マノメトロ」のシンプルなケースをあらためて眺めた後、「とても誠実な印象を受けます」と答えると、ジュリアーノ氏は満足気に微笑んでくれた。

イタリア・フィレンツェ出身。祖父は自転車修理工場、父が印刷会社を経営していたという職人一家に生まれたジュリアーノ氏もまた、メカニックの魅力に惹きつけられていた。「シンプルで機能的」、これを哲学に据え、まずはステーションナリーデザイナーという分野で才能を開花させた。微妙な凹凸ラインが美しい代表作、「モカ」コレクションのペン。

美味しそうな名の通り、コーヒーメーカーからインスピレーションを受けたという。「使ってみて初めて僕のデザインは完結するんだ」。なるほど実際に握り、線を描いていくと驚くほど滑らかにペンが進んでいく。「FIA

T」とのコラボレーションの成功もあり、ステーションナリーデザイナーとして確固たる地位を築いたが、どうしても取り組んでみたかったのは時計のデザインだったという。「直径わずか数センチの中に複雑な機構を持つメカニックでありながら、フアッション性を試される、これほどチャレンジ精神をかきたてられるものは他になかった」。そしてある日、偶然目にした圧力計からイマジネーションを得た「マノメトロ」が世界中で大ヒットとなった。

複雑機構や凝ったデザインの高級腕時計が主流となっている現在で、丸いケース、シンプルな文字盤の「マノメトロ」は時代を逆行しているような印象すら受ける。しかし腕に違和感なくフィットするやわらかい革バンド、一瞬で正確な時間を読み取れる文字盤と、腕時計の本質を大切に守り、余計なものをそぎ落とした洗練さが何ともかっこいいのだ。

さて、腕時計のデザインでも成功を収めたジュリアーノ氏、実は「地の町の時計台のデザインを依頼されているんだ」。フィレンツェという町に生まれ、この町の日常の景色から様々なデザインのヒントをもらったのだという。「デザインの師である最愛の地元」に、最高の作品を贈りたいと思っている」